

老年看護学（脳卒中看護、認知症看護）

准教授 飯山 有紀
Yuki Iiyama

現在の研究テーマと内容

認知症の診断後に必要な支援は何か

近年、アルツハイマー病の新しい疾患修飾薬への期待が高まっています。しかし一方で、治療のために告知を受けることによって認知症患者として生きる時間が延長することやうつ病などの課題が顕在化してきました。そのため、認知症と診断された方への診断直後から心理的支援を含んだ支援方法を新たに構築していく必要があると考えています。

これまでの研究成果と今後の展開

私たちはこれまで、軽度認知障害（MCI）の診断後支援でスタッフが抱えている困難感には、【MCIの人への支援の方向性が共有されていない】，【MCIの人とMCIの人に必要な資源をつなげにくい】，【MCIの人への支援の必要性を感じているが実践できない】という思いがあることを明らかにしました（認知症ケア雑誌、2023）。

さらに、全国の認知症疾患医療センターにおける診断後支援についてアンケート調査をし、MCI診断直後の人員が確保されスタッフの役割が明確になること、そして、かかりつけ医との連携がとれることでスタッフのMCIの人への診断後支援の自己評価が高まる可能性が示唆されました（Psychogeriatrics、2023）。

軽度認知障害（MCI）、そして認知症と診断された方への心理状態、認知症を低減するための生活支援など、MCIや認知症の人の思いを大切に診断後支援を明らかにしていきたいと考えています。

大学院を目指すみなさんへメッセージ

老年期を生きる人に限らず、これから老年期を迎える人をも対象にし、予防的介入からエンドオブライフ期まで、よりよく生きることを支えるための看護を探求しています。

看護は自身のあたまと手を使って実践します。人生における出会いや経験を大切に、研究を通してともに成長できることを楽しみにしています。